

天声人語

米国のバンド、イーグルスが

1990年代に再結成し、来日した時の観客の言葉が、紙面にあった。「『ホテル・カリフォルニア』のイントロが始まったとたん、私は19の時に戻っていた」。

そして当時訪れたロサンゼルス風景が、目の前に浮かんできたと▼あの物悲しいギター旋律がよみがえる方もおられよう。耳にしたとたん、昔に引き戻される。そんなイントロが誰にも一つや二つ、あるのではないか。しかし、これからは事情が違ってきてそうだ。ポピュラー音楽の前奏が大幅に短くなっているという▼米オハイオ州立大の研究者が過去30年のヒット曲を分析したところ、イントロ部分の平均時間は、86年には20秒以上あったのに、2015年には5秒にまで縮まっていた。興味を早めに引こうとして、すぐに歌い始める傾向があるという▼レコードやCDを買い、1曲目から聴いていたのは今や昔。ネット上の音楽は、数秒で気に入らなければ簡単に別の曲に変えられる。短めの前奏は、耳の争奪戦に勝つための工夫なのだろう。イントロを飛ばして聞く人すらいるという▼イントロにあたるものは、おそらく暮らしのなかにもある。1日の始まりに、窓を開けて光と風を入れる。仕事の前に1杯のコーヒーを飲む。師走の慌ただしさのなかでも、前奏は大切にしたい▼久しぶりに聴いたホテル・カリフォルニアのイントロは50秒ほどだった。その時間を惜しむのは、文化的に進化しているのか、それとも退化しているのか。